

11 經濟專攻專門科目

授業科目	日本経済論	担当者	船津 潤
	〔履修年次〕 1, 2年	授業外対応	講義前後、それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれない)が、遠慮なく声をかけてください)
	〔学期〕 前期 〔単位〕 2	〔必修/選択〕	選択 〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	【テーマ】日本の明治維新以降の経済・経済政策の動きとその背景について理解を深めること		
	【概要】明治維新から現在までの日本の経済と経済政策の動向について、特に産業政策、そして構造改革とアベノミクスに焦点を当てながら講義します。また、過去が現在とどうつながっているかという歴史的推移とともに、石油危機、プラザ合意、日米構造協議、そしてグローバル化といった海外からの影響を強く意識しながら講義を進めます。		
	【到達目標】①明治維新以降の日本の経済と経済政策の歴史的推移について理解し、説明できるようになること ②日本経済の歴史と海外とのつながりを踏まえて、日本経済の現状と課題について自分なりの見解が持てるようになること		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし (2) 三和良一『概説日本経済史 近現代 (第3版)』東京大学出版会 内閣府『年次経済財政報告 各年度版』		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明 第 2回 日本の産業政策の歴史 戦前(1)：資本主義社会とはどんな社会か等 第 3回 日本の産業政策の歴史 戦前(2)：明治維新の意義、その後の産業構造の変化等 第 4回 敗戦直後の日本経済：敗戦直後の状況、傾斜生産方式、1950年代前半の産業政策等 第 5回 高度成長の開始：高度成長初期の産業政策と経済状況・産業構造等 第 6回 行政指導：勸告操短、企業の反発等 第 7回 開放経済体制への移行：IMF8 条国への移行、産業再編等 第 8回 1970年代の日本経済：2度のオイル・ショック、構造不況業種への対応、知識集約化・高付加価値化への動き等 第 9回 企業集団とその変化：戦後の企業集団の特徴、グループ内の結び付き、現在の状況等 第 10回 1980年代以降の日本経済：対米貿易摩擦、日米構造協議等 第 11回 現在の産業政策：産業競争力強化法、現在の産業政策の特徴等 第 12回 グローバル化と構造改革への動き：プラザ合意と国際協調、バブル崩壊後の動向等 第 13回 構造改革：構造改革の特徴・本質等 第 14回 構造改革とアベノミクス：構造改革下の福祉改革の内容と特徴、アベノミクスとの比較等 第 15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等		
授業外学習(予習・復習)	普段から日本経済関連のニュース(できれば外国のメディアを含む複数)に注目すること、特に講義後に関連する事項についてインターネットや文献等を通して調べ、検討することを勧めます(これらは公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも有意義です)。そして、講義内容に直接関係しなくても、聞きたいことが出てきたら、遠慮なく質問してください。		
成績評価の方法	筆記試験(80%)、小テスト(20%)を基本とし、アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。		
実務経験について	なし		

授業科目	財政学	担当者	船津 潤
	〔履修年次〕 1, 2年	授業外対応	講義前後, それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが, 遠慮なく声をかけてください)
	〔学期〕 後期 〔単位〕 2	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】財政に関する基本的な概念や理論, 日本の財政の基礎的な制度について, 内容, 実態, 特徴, 課題に関する理解を深めること</p> <p>【概要】まずは財政に関する基本的な概念や理論について講義します。その上で, それらを踏まえて財政の基礎的な制度に関する講義を行います。そこでは, 財政民主主義という財政制度の根幹, 経済における公共部門と民間部門の関係, 歴史的推移, そしてグローバル化の影響を強く意識しながら講義を進めます。この講義を受講することで, 他の科目で学んだマクロ経済学の理論等が実際にどのように政策に活用されているのかも理解できると思います。また, 財政は, 政治と経済の「結節点」(つなぎ目)の役割を担っていますので, 他の科目では触れることが少ない経済に対する政治の影響に関しても見識を高めることができるはずです。</p> <p>【到達目標】①財政の基礎的な制度について理解し, 説明できるようになること ②実際の政府の活動について分析・評価できるようになること ③マクロ経済学の理論等がどのように政策に活用されているのかを理解すること ④財政の影響を踏まえて, 経済・社会の動向を的確に把握できるようになること</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし (2) 金澤史男編著『財政学』有斐閣(2005年) 植田和弘・諸富徹編著『テキストブック現代財政学』有斐閣(2016年) 佐々木伯朗編著『財政学』有斐閣(2019年) 廣光俊昭編著『図説 日本の財政 各年度版』東洋経済新報社</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス: 講義の目標, 評価基準等の説明 第 2 回 財政(1): 財政の定義, 財政学の特徴, 政府に対する評価の揺れ等 第 3 回 財政(2): 市場の失敗, 財政民主主義と制度化に必要な原則等 第 4 回 予算(1): 定義, 役割, 政府と議会の役割, 予算原則等 第 5 回 予算(2): 予算の種類, 特別会計と「埋蔵金」, 改革の方向等 第 6 回 経費(1): 定義, 主要な分類, 経費膨張の法則, 転位効果等 第 7 回 経費(2): 小さな政府論とサプライサイド・エコノミクス等 第 8 回 租税(1): 定義, 租税の根拠, 代表的な租税原則等 第 9 回 租税(2): 公平の基準, 望ましい税制とは等 第 10 回 公債(1): 定義, 民間債務・租税との対比, 公債の種類等 第 11 回 公債(2): 日本の国債発行における原則, 制度, 「ギリシャよりひどい」は本当か等 第 12 回 財政投融资: 定義, 運用対象, 批判, 2001年度の改革, 今後の展望等 第 13 回 財政の国際化: 国際公共財, グローバル化と国際的財政移転等 第 14 回 財政改革を考える: 社会の変化と財政, 財政危機とは, 財政改革で求められる視点等 第 15 回 まとめ: 講義を振り返りつつポイントの説明, 試験についての説明等</p>		
授業外学習(予習・復習)	<p>講義の前後に財務省のサイト等で関連事項について調べて検討すること, 普段から経済・財政関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディアを含む複数, 加えて日本関連だけでなく, 諸外国関連のニュースも)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも有意義です)。そして, 講義内容に直接関係しなくても, 聞きたいことが出てきたら, 遠慮なく質問してください。</p>		
成績評価の方法	<p>筆記試験(80%), 小テスト(20%)を基本とし, アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。</p>		
実務経験について	<p>なし</p>		

授業科目	農業経済論	担当者	未定
	[履修年次] [学期] [単位]	授業外対応 [必修/選択]	[授業形態]
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法			

授業科目	ファイナンス論	担当者	岩上敏秀
	[履修年次] 1年、2年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応 [必修/選択] 選択	いつでも対応します。メールで連絡してください。 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 資産運用のための投資商品や投資手法について実践的な知識を学びます。 【概要】 私たちが働いて生涯で得られる所得は限られています。限られた生涯所得を運用し、上手に資産形成しながら将来に備えていく必要があります。本講義は、株式などの投資商品について学んだ上で、リスクを抑えながら一定の効果を生む投資手法について考えていきます。スマホを活用したリアルタイム投稿システムを使って、受講者と双方向コミュニケーションしながら講義を進めます。 【到達目標】 ・証券投資や資産運用に関するニュースを理解できるようになる。 ・各種投資商品の内容とリスクを理解し、自分に最適な投資商品を選べるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 授業内で適宜紹介する		
授業スケジュール	第 1 回 ガイダンス：講義の目的・進め方、人生とお金（1）（生涯でかかるお金を確認しよう） 第 2 回 人生とお金（2）（生涯で受け取るお金を確認しよう） 第 3 回 投資のリスクとリターン（投資収益率、分散、標準偏差） 第 4 回 主な投資商品（預金、債券、株式、投資信託、債券と金利） 第 5 回 株式投資（1）（株式会社、上場、証券取引所） 第 6 回 株式投資（2）（株価、チャートの見方） 第 7 回 株式投資（3）（株価の変動要因、会社の価値） 第 8 回 株式投資（4）（株価の適正水準） 第 9 回 株式投資（5）（事例研究①：企業分析、業績予想） 第 10 回 株式投資（6）（事例研究②：企業価値、株価の予想） 第 11 回 分散の効果（投資先の分散、時間の分散） 第 12 回 長期投資の効果（複利、分散、積立） 第 13 回 投資信託（1）（投資信託の基本） 第 14 回 投資信託（2）（ファンド情報の見方、ファンドの選び方） 第 15 回 まとめ、授業アンケート		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示します。		
成績評価の方法	中間レポート（30%）＋期末試験（70%）		
実務経験について	国内外の金融機関で約30年の実務経験があります。		

授業科目	経済学史	担当者	カムチャイ	ライサミ
	〔履修年次〕 1年、2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2	授業外対応	講義終了時	
		〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経済学史入門 経済学説の史的展開をやさしく解説する。</p> <p>【概要】経済学の時代的要請と経済学者の人となり 経済学の黎明期前後（17世紀頃）から現代経済学（20世紀初頭）までの主要学説と経済学者を中心に紹介する。</p> <p>【到達目標】経済学の歴史を知ることによって経済学をより深く理解できること 経済学の歴史を学んでその意義と限界を知ることによって正しい見方を身につける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキストなし。毎回プリントを配布する。</p> <p>(2) 必要に応じて、その都度指示する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 経済学史の範囲と方法：経済学史年表</p> <p>第2回 重商主義の経済思想：マリーンズ、マン、スチュアート</p> <p>第3回 重農主義の経済思想：ケネー、テュルゴー</p> <p>第4回 過渡期の経済思想：ペティ、ロック、マンデヴィル、カンティロン、ヒューム</p> <p>第5回 古典学派の生成：スミス</p> <p>第6回 古典学派の発展：マルサス、リカード</p> <p>第7回 古典学派の完成：セイ、シスモンディ、シーニア、ミル</p> <p>第8回 ドイツ歴史学派：リスト、ロッシュャー、ヒルデブラント、クニース</p> <p>第9回 マルクス学派：マルクス</p> <p>第10回 限界革命の先駆者達：チューネン、ゴッセン、デュビュイ</p> <p>第11回 限界分析の経済学：クールノー、ジェヴォンズ</p> <p>第12回 オーストリア学派：メンガー、ヴィーザー、バウム＝バヴェルク</p> <p>第13回 ローザンヌ学派：ワルラス、パレート</p> <p>第14回 ケンブリッジ学派：マーシャル、ピグー</p> <p>第15回 ケインズ革命：ケインズ</p>			
授業外学習(予習・復習)	授業前後に必ず合計で4時間程度の予習・復習を行うこと。			
成績評価の方法	期末筆記試験（100%）			
実務経験について	なし。			

授業科目	経済学特講 I	担当者	岩上敏秀	
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2	授業外対応	いつでも対応します。メールで連絡してください。	
		〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】証券外務員一種資格試験合格に必要な証券取引の基礎知識および実務知識を学びます。</p> <p>【概要】金融機関の職員として金融商品の営業活動に従事するには、証券外務員の資格が必要です。本講義は、銀行などの金融機関に内定した学生を対象に、証券外務員一種資格試験に合格するために必要な証券取引の基礎知識および実務知識を学びます。商経学科以外の学科から銀行に内定している学生の履修も歓迎します。（本講義は、金融商品を販売する側の金融機関での実務知識を学びます。金融商品を利用する側の証券投資や資産運用を学びたい場合は、「ファイナンス論」の履修を薦めます）</p> <p>【到達目標】証券外務員一種資格試験に合格できる知識を修得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業内で適宜紹介する</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、株式業務、信用取引(1)</p> <p>第2回 株式業務、信用取引(2)</p> <p>第3回 債券業務(1)</p> <p>第4回 債券業務(2)</p> <p>第5回 先物取引、オプション取引、店頭デリバティブ取引(1)</p> <p>第6回 先物取引、オプション取引、店頭デリバティブ取引(2)</p> <p>第7回 先物取引、オプション取引、店頭デリバティブ取引(3)</p> <p>第8回 先物取引、オプション取引、店頭デリバティブ取引(4)</p> <p>第9回 証券税制</p> <p>第10回 協会定款・諸規則、金融商品取引法(1)</p> <p>第11回 協会定款・諸規則、金融商品取引法(2)</p> <p>第12回 協会定款・諸規則、金融商品取引法(3)</p> <p>第13回 投資信託および投資法人に関する業務</p> <p>第14回 財務諸表と企業分析</p> <p>第15回 確認テスト、まとめ、講義アンケート (受講者の外務員資格試験受験日程を踏まえ、講義スケジュールを変更する可能性があります)</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示します。			
成績評価の方法	確認テスト（100%）			
実務経験について	国内外の金融機関で約30年の実務経験があります。			

授業科目	経済学特講Ⅱ	担当者	山口 祐司
	〔履修年次〕 1、2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2	授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
テーマ及び概要	<p>【テーマ】アメリカ経済とアメリカを中心とした国際経済関係の歴史を通して、経済学上のキーワードを学んでいきます。</p> <p>【概要】アメリカの力の相対的低下にもかかわらずアメリカに学ぶ意義（第1回）。19世紀から20世紀初頭にかけてのアメリカ経済の勃興（第2～3回）。1929年に始まる大恐慌の原因と結果（第4～6回）。1950～70年代にかけて、アメリカが主導する資本主義陣営の高度経済成長とその限界（第7～9回）。1980年代以降の、「新自由主義」と呼ばれる改革をテコにした新たな経済成長の仕組み（第10～12回）。新自由主義がアメリカにもたらした問題と今後のゆくえ（第13～14回）。経済を考える上でも、科学・技術や文化、政治など、同時代の社会の動きを知ることは重要である。映像資料等を利用してそうした知識も補っていく。</p> <p>【到達目標】アメリカ経済の歴史から特質を学ぶこと。良い意味でも悪い意味でも資本主義経済の最先端をいくアメリカに学ぶことで、日本を含む世界が直面する経済・社会の問題に取り組む力をつけること。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (2) 講義時に提示</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、なぜいまアメリカ経済を学ぶか 第2回 アメリカ経済の勃興（1）大量生産体制 第3回 アメリカ経済の勃興（2）債務国から世界最大の債権国へ 第4回 大恐慌と第二次世界大戦（1）狂騒の1920年代 第5回 大恐慌と第二次世界大戦（2）保護貿易と世界恐慌 第6回 大恐慌と第二次世界大戦（3）ニューディールと戦争 第7回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策（1）ブレトンウッズ体制と戦後国際経済秩序 第8回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策（2）ケインズ政策と持続的経済成長 第9回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策（3）ドル危機と石油危機 第10回 新自由主義の興隆（1）レーガノミクスと金融化 第11回 新自由主義の興隆（2）グローバルサプライチェーンの形成 第12回 新自由主義の興隆（3）先端技術とイノベーション 第13回 新自由主義の帰結（1）リーマンショック 第14回 新自由主義の帰結（2）格差問題のゆくえ 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	事前に提示する参考文献を予習し、授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。		
成績評価の方法	筆記試験（60%）、毎回の授業で実施する授業まとめ（40%）		
実務経験について	なし。		

授業科目	法学特講	担当者	疋田京子
	〔履修年次〕 1年、2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2	授業外対応	コミュニケーション・カードを利用する
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ジェンダー法学入門</p> <p>日本の国内法だけでなく国際社会におけるあらゆる法の領域をジェンダーの視点から概観する。</p> <p>【概要】国際社会ではLGBTIに関する国連決議や、過激化するテロ活動のなかで「女性に対する暴力」もし烈になり、国内ではDV防止法や刑法の改正、嫡出子相続差別やマタニティ・ハラスメントなどに関する最高裁判決など、家族法・労働法に関する重要な判決が出ています。こうしたジェンダーに関わる法や判例が、どのような社会の変化によって実現してきたのかを講義します。</p> <p>【到達目標】</p> <p>人格の中核にあるセクシュアリティと社会のジェンダー規範が密接に関係していることを、国連における決議や条約、国内法の改正の議論や判例を概観することによって理解することを目指します。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 三成・笹沼・立石・谷川著『ジェンダー法学入門【第2版】』法律文化社 (2) 江原由美子・金井淑子『フェミニズムの名著50』平凡社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：ジェンダー法学の基礎知識 第2回 ジェンダー主流化にむけて（1）国際社会の動向とジェンダー主流化の展開 第3回 ジェンダー主流化にむけて（2）人権とジェンダー 第4回 身体と性（1）女性に対する暴力 第5回 身体と性（2）セクシュアル・ハラスメント 第6回 身体と性（3）性的自己決定権の侵害と性差別 第7回 身体と性（4）売買春と人身取引 第8回 身体と性（5）性と生殖の権利 第9回 親密圏（1）家族形態の多様化と法：家族法とその課題 第10回 親密圏（2）グローバル化時代の離婚をめぐる諸問題 第11回 親密圏（3）生殖補助医療と親子関係 第12回 親密圏（4）DV防止法の仕組み／ストーカー規制法／児童虐待防止法 第13回 労働者保護の基本的なしくみ 第14回 雇用における差別と労働者保護から排除される労働者 第15回 まとめ：ワーク・ライフ・バランス</p>		
授業外学習(予習・復習)	講義で紹介した本を、一冊は読んでみてください。		
成績評価の方法	毎回の小レポートと学期末に1回レポートを課します。		
実務経験について	なし		

授業科目	簿記論II		担当者	岡村雄輝
	〔履修年次〕	指定なし	授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
				〔授業形態〕
				講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複式簿記の基本原理を学ぶ</p> <p>【概要】日商簿記3級レベルのテキスト、ワークブックを使用して複式簿記による記帳手続を解説し、問題演習に取り組みます。簿記力を着実に養い、より高度な会計を学ぶためには、問題演習の反復を通じた複式簿記の基本原理の理解が肝要です。勤勉な学習姿勢が望まれます。※簿記論Iと連続して講義を展開しますので、併せて受講してください。</p> <p>【到達目標】個別の勘定科目に応じた決算手続、補助簿、伝票の記入を学習する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 渡部裕吾, 片山寛, 北村敬子 (編)『新検定 簿記講義3級 商業簿記』『新検定 簿記ワークブック』(令和5年版), 中央経済社。</p> <p>(2) 大藪俊哉編『簿記テキスト』(第6版), 中央経済社。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 簿記とは? : 簿記の意義, 目的, 財務諸表</p> <p>第2回 仕訳と転記: 仕訳の意義, 勘定への転記</p> <p>第3回 決算: 決算の意義と手続, 試算表作成</p> <p>第4回 決算: 帳簿の締切りと財務諸表の作成, 決算手続と精算表</p> <p>第5回 現金と預金: 当座預金と当座借越, その他の預金, 小口現金</p> <p>第6回 繰越商品・仕入・売上: 仕入帳と売上帳, 商品有高帳</p> <p>第7回 売掛金と買掛金: 売掛金明細表と買掛金明細表, クレジット売掛金, 前払金と前受金</p> <p>第8回 その他の債権と債務: 仮払金と仮受金, 受取商品券, 差入保証建</p> <p>第9回 有形固定資産: 有形固定資産の取得と売却, 減価償却, 固定資産台帳, 年次決算と月次決算</p> <p>第10回 資本: 株式会社の設立と株s期の発行, 繰越利益剰余金, 配当</p> <p>第11回 収益と費用: 収益・費用の未収・未払いと前受け・前払い, 消耗品と貯蔵品</p> <p>第12回 伝票: 仕訳帳と伝票, 3伝票制, 伝票から帳簿への記入, 伝票の集計</p> <p>第13回 財務諸表: 精算表の作成, 財務諸表の作成</p> <p>第14回 総合問題: 問題演習と解説②</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	毎回復習をすること。継続的な学習なしに簿記はできるようになりません。			
成績評価の方法	期末テスト100%			
実務経験について	なし			

授業科目	国際経済論		担当者	野村俊郎
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
				〔授業形態〕
				講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】WTOについて学び、国境のない世界、自由で平和な世界を目指すとはどういうことか考える</p> <p>【概要】現在の世界は国境によって193の国に分かれている。しかし、WTOによって経済的な国境の壁は低くなり、企業は国境を超えて全世界で活動するようになった。WTOは第2次世界大戦の反省に基づいて生まれたGATTを前身としている。経済的な国境の壁を低くすることが、どのように国境のない世界、自由で平和な世界に繋がっていくかを順次説明していく。</p> <p>【到達目標】第2次大戦前のブロック経済がどのように戦争に進んだのか、それをどう反省してGATTが創設されたのか、自由で平和な世界に向かうWTOの意義と限界を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布</p> <p>(2) 野村俊郎『トヨタの新興国車IMV』および『トヨタの新興国適応』文真堂</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 テーマ説明:「国境のない世界、自由で平和な世界を目指す」とはどういうことか</p> <p>第2回 戦争と冷戦を超えて～WTOは何故生まれたのか～</p> <p>第3回 WTOの概要</p> <p>第4回 一般的最恵国待遇</p> <p>第5回 内国民待遇</p> <p>第6回 数量制限禁止</p> <p>第7回 経済制裁をWTOは禁止しているのに、実際には行われているのは何故なのか</p> <p>第8回 交渉に時間のかかるWTOを補完する地域統合</p> <p>第9回 EU①</p> <p>第10回 EU②</p> <p>第11回 EU③</p> <p>第12回 AFTAとAEC</p> <p>第13回 メルコスール</p> <p>第14回 TPP</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験(100%)			
実務経験について	なし			

授業科目	アジア経済論	担当者	野村俊郎
	[履修年次] 1, 2年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期] 前期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択
		[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国・インド・ASEANの経済とAFTA・AECについて学び、その成長と限界を考える</p> <p>【概要】アジアには経済規模が世界最大の中国、第3位の日本、第5位のインド、今後の成長が期待されるASEANなどがある。それぞれが日本を除いて先進国の植民地だったという共通の過去、そして独立のための戦いを経て政治的に独立し、様々な試みの末に資本主義国として経済成長を遂げたという共通の歴史を持つ。こうした歴史を踏まえてアジア経済がどこに向かうのかを説明していく。</p> <p>【到達目標】アジア各国の経済が植民地経済から低開発経済を経て資本主義国として成長してきたことの意義と限界を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリントを配布</p> <p>(2) 野村俊郎『トヨタの新興国車IMV』および『トヨタの新興国適応』文真堂</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 テーマ説明：植民地経済から低開発経済を経て先進国経済へ～資本主義経済の成長力と限界～</p> <p>第2回 日米欧による植民地支配下と植民地経済～日米欧に収奪されたアジア～</p> <p>第3回 植民地支配からの独立を目指すアジア各国の戦い①中国</p> <p>第4回 植民地支配からの独立を目指すアジア各国の戦い②インド</p> <p>第5回 植民地支配からの独立を目指すアジア各国の戦い③インドネシア</p> <p>第6回 植民地支配からの独立を目指すアジア各国の戦い④ベトナム</p> <p>第7回 低開発経済からの脱却への道：社会主義、そして資本主義へ①中国</p> <p>第8回 低開発経済からの脱却への道：社会主義、そして資本主義へ②インド</p> <p>第9回 低開発経済からの脱却への道：社会主義、そして資本主義へ③ベトナム・ラオス・カンボジア</p> <p>第10回 奇跡の成長①中国の改革開放</p> <p>第11回 奇跡の成長②インド</p> <p>第12回 奇跡の成長③インドネシアの外資規制緩和</p> <p>第13回 奇跡の成長④ベトナムのドイモイ</p> <p>第14回 AFTA・AECと成長の限界：アジアに豊かで平等で持続可能な未来はあるか</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験(100%)		
実務経験について	なし		

授業科目	国際関係論	担当者	福田 忠弘
	[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可	[学期] 前期	
	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】国際社会に生じうるさまざまな諸問題について理解する。同時に、国家以外の行為体についての理解を深める。</p> <p>【概要】本講義では、国際関係の史的展開を概説したうえで、現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では、第二次世界大戦後の冷戦史(特にアジアにおける冷戦)を対象とし、国際システムの歴史の変遷をたどる。その後、特に貧困問題、環境問題、人権、テロ、グローバルガバナンスについての説明と、問題解決に向けた国際社会の取り組みを紹介する。</p> <p>【到達目標】国際社会の現在の諸問題を把握し、その背景についての理解を深める。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 使用しない。</p> <p>(2) 原彬久編『国際関係学講義』(有斐閣, 2006年)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的, 方法</p> <p>第2回 国際関係論の基礎1：国内社会と国際社会は何か違うのか</p> <p>第3回 国際関係論の基礎2：行為体と争点の多様化</p> <p>第4回 国際関係のなりたち1：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦</p> <p>第5回 国際関係のなりたち2：アジアにおける冷戦の拡大1</p> <p>第6回 国際関係のなりたち3：アジアにおける冷戦の拡大2</p> <p>第7回 国際関係のなりたち4：核兵器について</p> <p>第8回 国際関係のなりたち5：大国の支配とナショナリズム</p> <p>第9回 国際関係のなりたち6：冷戦後の世界秩序</p> <p>第10回 国際社会における諸問題1：グローバル化と貧困問題</p> <p>第11回 国際社会における諸問題2：貧困と開発</p> <p>第12回 国際社会における諸問題3：国境を越える諸問題</p> <p>第13回 国際社会における諸問題4：保守化する世界</p> <p>第14回 国際社会における諸問題5：グローバルガバナンス</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	試験(80%)、授業への参加態度(20%)によって評価する。		

授業科目	比較文化		担当者	小林朋子
	[履修年次] 1年	[学期] 前期	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】異文化理解・異文化コミュニケーション・異文化交流とは何か。</p> <p>【概要】今日のグローバル社会では、毎日の生活で異なる文化を持つ人々とのコミュニケーションが増加している。また、「異文化」とは国境を越える出会いを背景とした文化であるというステレオタイプを取り払えば、異質な他者との出会いも私たちの日常にあふれている。本講義では、そうした他者とのような関係性＝コミュニケーションを構築していくべきなのか、様々な観点から学んでいく。講義終了後、外国人との交流の時間を設ける。受講者はこの「異文化交流会」に向けて、主体的に考えながら講義を受ける必要がある。</p> <p>【到達目標】・広い視野から異文化を正しく理解した上で、他言語を話す人々の価値観を知り、適切にコミュニケーションを行うことができる。・異文化交流の意義について体験的に理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 伊佐雅子監修『多文化社会と異文化コミュニケーション』（三修社刊、2007年）</p> <p>(2) 池田理知子編著『よくわかる異文化コミュニケーション』（ミネルヴァ書房、2010年）他。（授業で随時紹介します）</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 異文化コミュニケーションを学ぶことの意義：文化・異文化とは何か</p> <p>第2回 グローバル社会と異文化コミュニケーション（1）：グローバル化の意味</p> <p>第3回 グローバル社会と異文化コミュニケーション（2）：異文化交流の歴史と異文化への根差し</p> <p>第4回 空間、時間、異文化コミュニケーション：さまざまな意味をもつ空間と時間</p> <p>第5回 「地球都市の出現とコミュニケーション」：都市化する世界</p> <p>第6回 女性と異文化適応：異文化適応におけるジェンダー</p> <p>第7回 異文化コミュニケーションと誤解の接点：誤解という身近なできごと</p> <p>第8回 異文化コミュニケーションにおける言語選択：「英語の普及」をどう捉えるか</p> <p>第9回 異文化コミュニケーションとしての通訳者（1）：通訳の種類、通訳の歴史</p> <p>第10回 異文化コミュニケーション者としての通訳者（2）：通訳は言葉の置き換え作業？</p> <p>第11回 異文化交流会準備（1）：異文化接触とは「よそ者」と異文化適応</p> <p>第12回 異文化交流会準備（2）：グローバル化とアイデンティティー自分のことば、他者のことば</p> <p>第13回 異文化交流会準備（3）：異文化コミュニケーションとは</p> <p>第14回 異文化交流会：異文化コミュニケーションの実践</p> <p>第15回 異文化交流会まとめ：新しい「異文化コミュニケーション」に向けて</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	授業への参加態度（40%）、小レポート（異文化交流会前の準備レポートを含む）（20%）、最終レポート（40%）			
実務経験について	なし			

授業科目	アジア事情		担当者	福田 忠弘
	[履修年次] 1年、2年いずれでも履修可	[学期] 後期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択
	[授業形態]	講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】東アジア、東南アジアの歴史と現在の状況について把握する。</p> <p>【概要】アジアは、地理、歴史、言語、文化、宗教、民族など、すべての面において多様である。本講義では、「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を得ながらも、「共通性」について焦点をあてる。近代以降においては植民地化、現代においては脱植民地化、国民国家建設、リージョナリズム（地域主義）の形成という共通性がある。また、最近東アジアにおける地域協力が注目を浴びている。これらの共通する事象を抽出し、分析する。</p> <p>【到達目標】「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を深める。</p>			
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 使用しない。</p> <p>(2) プリント</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的と方法</p> <p>第2回 「アジア」という概念：アジアはどこまでがアジアか</p> <p>第3回 歴史的形成1：植民地以前のアジア</p> <p>第4回 歴史的形成2：植民地のようす</p> <p>第5回 歴史的形成3：植民地からの独立</p> <p>第6回 歴史的形成4：脱植民地化、国民国家建設、開発</p> <p>第7回 歴史的形成5：冷戦下のアジア</p> <p>第8回 東南アジア1：インドシナ三国</p> <p>第9回 東南アジア2：ベトナム戦争の影響</p> <p>第10回 東南アジア3：タイ、ミャンマー、マレーシア</p> <p>第11回 東南アジア4：メコン河流域開発</p> <p>第12回 東南アジアの地域協体制：ASEANの形成</p> <p>第13回 アジアにおける協体制1：ASEANを中心とする協力1</p> <p>第14回 アジアにおける協体制2：ASEANを中心とする協力2</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する			
成績評価の方法	試験（80%）、授業への参加態度（20%）によって評価する。			

授業科目	ヨーロッパ経済事情		担当者	大重 康雄	
	[履修年次]	1年、2年	授業外対応	メール等で適宜対応	
	[学期]	後期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ヨーロッパ(EU)を主に経済の視点でとらえ、ヨーロッパ(EU)がもたらす世界経済への影響や広域経済連携地域が内包する課題を考察する</p> <p>【概要】ヨーロッパ地域統合(EU)から通貨統合およびその後の金融財政危機等の変遷に注目し、今後のヨーロッパ社会の展望について考える。特に今期は直近の新型コロナウイルス・ウクライナ侵攻による地政学的リスクが深刻化しておりそれら問題を米国や日本と対比し考える。</p> <p>【到達目標】ヨーロッパ地域統合(EU)の現状と課題を学ぶことにより、大規模な経済連携やグローバル化が地域や人々にどのような影響を与えるかを理解できる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 田中素香ほか『現代ヨーロッパ経済 第6版』有斐閣アルマ および講師作成プリント</p> <p>(2) 遠藤乾編『ヨーロッパ統合史』名古屋大学出版会ほか</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 現在ヨーロッパで何が起きているか(ロシアのウクライナ侵攻と世界経済)</p> <p>第2回 ヨーロッパ統合前史</p> <p>第3回 ヨーロッパ統合の歴史</p> <p>第4回 統一通貨ユーロとは</p> <p>第5回 環境・エネルギー課題とEU財政諸問題</p> <p>第6回 EU社会が抱える地政学的課題</p> <p>第7回 BREXIT後のイギリスの将来</p> <p>第8回 フランスとEU経済</p> <p>第9回 ドイツとEU経済</p> <p>第10回 その他諸国とEU経済</p> <p>第11回 中・東欧諸国とEU経済</p> <p>第12回 EUと対外通商政策</p> <p>第13回 欧州通貨と国際金融システム</p> <p>第14回 ヨーロッパ社会とEUの将来</p> <p>第15回 講義のまとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	授業中各自に質問をするのでシラバスに従って予習・復習し授業中に質問・意見交換すべきことをまとめておくこと。				
成績評価の方法	筆記試験(80%) + 授業での発言内容(20%)				
実務経験について	地域金融機関での貿易取引等外国為替業務の知識・海外経験を活かし、国際金融市場動向や地域経済を意識した実践的な授業を目指す。				

授業科目	国際経済特講 I		担当者	村田 秀博	
	[履修年次]	1、2年生	授業外対応	授業終了後Eメールにて	
	[学期]	後期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地域経済の国際化と鹿児島県内企業の海外進出事例、それに伴う貿易取引</p> <p>キーワード：鹿児島県内企業も数多く海外業務を行っている。資料DVDサンプル多用のわかりやすい授業</p> <p>【概要】日本の中小企業は、近年の国内経済環境の変化の中で企業活動を海外へ拡大させ、更なる商機をつかもうという動きが活発化している。県内でも同様であり、海外を目指す中小企業が「挑戦」「失敗」「成功」を繰り返している。その具体的な現状を認識した上で、海外展開方法論を考える。また基礎となる貿易知識も習得する。</p> <p>【到達目標】地域の海外展開の具体的な動きを理解する中で、優位性・課題問題点をふまえた独自の解決方法を見出す。県内企業・行政機関などで、海外業務を担当できるスキルを習得する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) レジューメ・プリント資料</p> <p>(2) 海外映像・サンプル・雑誌新聞投稿資料ほか</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス(日本経済・地域経済のグローバル化・海外知的財産権・外国人人材)</p> <p>第2回 鹿児島県内中小企業の国際化の現状</p> <p>第3回 進出国の情勢比較(中国)</p> <p>第4回 進出国の情勢比較(中国)</p> <p>第5回 海外知的財産権の保護(悪意の商標登録など)</p> <p>第6回 県内大学の海外展開・県内医療機関メディカルツアーの誘致</p> <p>第7回 進出国の情勢比較(台湾・香港・タイ)</p> <p>第8回 進出国の情勢比較(ベトナム・外国人人材受け入れ)</p> <p>第9回 進出国の情勢比較(ミャンマー・シンガポール)</p> <p>第10回 進出国の情勢比較(マレーシア・インドネシア・ロシアほか)</p> <p>第11回 貿易実務(各自由貿易協定、RCEP・TPP・FTA・EPAほか)</p> <p>第12回 貿易実務(外国為替・為替相場・先物予約)</p> <p>第13回 貿易実務(外貨預金・外貨貸付)</p> <p>第14回 貿易実務(輸出・輸入)</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)					
成績評価の方法	筆記試験50%+レポート50%				
実務経験について	金融機関にて国際業務に23年間携わり、世界各地にてフィールドワーク実践。貿易・外国人人材・海外知的財産権専門家。海外ビジネスツアー100回以上企画開催。タイ王国赴任経験あり。				

授業科目	国際経済特講Ⅱ	担当者	野村俊郎、伊原保守、細川薫、山本 肇
	〔履修年次〕 1, 2 年いずれでも履修可 〔学期〕 前期 〔単位〕 2	授業外対応	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】売上 28 兆円、純利益 2 兆円のトヨタは「100 年に一度の大変革期」CASE にどう挑むか～伊原保守元副社長、細川薫トヨタ自動車元チーフエンジニア (CE) に聞く～</p> <p>【概要】伊原保守元副社長、細川薫トヨタ自動車 CE にトヨタが売上 28 兆円、純利益 2 兆円を達成できる秘密、今後 CASE にどう挑んでいくかについて聞く。細川元 CE は新興国専用車 IMV の担当のため、IMV が投入されているタイ、インドネシア、フィリピン、マレーシア、ベトナムの市場動向について山本肇氏に解説して頂く。</p> <p>【到達目標】「売れるモノ」「儲かるモノ」の企画、設計の秘訣、大きな変化に対応できる秘密について理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布する (2)		
授業スケジュール	第 1 回 売上 28 兆円、純利益 2 兆円の企業トヨタ (野村俊郎) : グローバル競争とトヨタ 第 2 回 売上 28 兆円、純利益 2 兆円の秘密① (同上) : グローバル競争を勝ち抜く商品力の創造→企画と設計のルーツ 第 3 回 売上 28 兆円、純利益 2 兆円の秘密② (同上) : グローバル競争を勝ち抜く原価低減→開発・製造・調達のルーツ 第 4 回 トヨタの企画・設計の現場と売れる秘密、儲かる秘密① (細川) 第 5 回 トヨタの企画・設計の現場売れる秘密、儲かる秘密② (同上) 第 6 回 トヨタの企画・設計の現場売れる秘密、儲かる秘密③ (同上) 第 7 回 トヨタの CASE への挑戦① (伊原) 第 8 回 トヨタの CASE への挑戦② (同上) 第 9 回 トヨタの CASE への挑戦③ (同上) 第 10 回 タイの自動車産業～アセアンのハブ (同上) マレーシアの政治・経済 (山本) 第 11 回 インドネシアの自動車産業～アセアン最大市場の行方 (同上) 第 12 回 フィリピンの自動車産業 (同上) 第 13 回 マレーシアの自動車産業～国民車政策の行方 (同上) 第 14 回 ベトナムの自動車産業 (同上) 第 15 回 燃費、排ガス、安全規制と新興国車 (同上)		
授業外学習(予習・復習)	授業では事実よりも見方、考え方に重点をおいて語ります。その見方、考え方を使って、いろいろ自分でも考えてみて下さい。		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		
実務経験について	伊原保守氏: トヨタ自動車元副社長・アイシン精機前社長、細川薫氏: トヨタ自動車製品企画本部 ZB 元チーフエンジニア (CE) 山本肇氏: 三菱総研 (MRI) から IHS Automotive Thailand を経て野村総研 (NRI) タイで ODA (技術協力) のコンサルティング		

授業科目	地域経済論	担当者	未定
	〔履修年次〕 〔学期〕 〔単位〕	授業外対応	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法			
実務経験について			

授業科目	地域産業政策	担当者	未定
	[履修年次]	授業外対応	
	[学期] [単位]	[必修/選択]	[授業形態]
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法			
実務経験について			

授業科目	地方自治論	担当者	船津 潤
	〔履修年次〕 1, 2年	授業外対応	講義前後、それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが、遠慮なく声をかけてください)
	〔学期〕 前期 〔単位〕 2	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地方自治、地方行財政に関する基本的な概念や理論、日本の制度の内容、実態、特徴、課題に関する理解を深めること</p> <p>【概要】地方自治とは何か、日本の国と地方自治体との関係(政府間関係)の特徴を踏まえて、地方自治や地方行財政に関する基本的な概念や理論、制度について講義するとともに、参考になるとと思われる海外の事例も取り上げます。また、グローバル化の地方自治に与える影響等についても講義します。</p> <p>【到達目標】①日本の地方自治・地方行財政制度について理解し、説明できるようになること ②地方自治体の活動について主体的に考察し、判断できるようになること ③自分が暮らす地域の課題を見出し、その解決策を提案できるようになるための基礎力を身につけること</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 総務省編『地方財政白書 各年版』日経印刷</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明</p> <p>第2回 地方自治(1)：定義、地方自治が求められる根拠、地方自治の意義等</p> <p>第3回 地方自治(2)：グローバル化の影響等</p> <p>第4回 地方自治体の意思決定(1)：国と地方公共団体の関係、首長・役所・議会の関係等</p> <p>第5回 地方自治体の意思決定(2)：地方の予算制度、長の強い権限等</p> <p>第6回 地方自治体の財源(1)：歳入の自治と三位一体の改革、地方債等</p> <p>第7回 地方財政健全化法(1)：地方財政健全化法、地方債改革との関係等</p> <p>第8回 地方財政健全化法(2)：法律成立の背景、地方自治への影響等</p> <p>第9回 地方自治体の財源(2)：地方交付税、国庫支出金、問題点等</p> <p>第10回 法定外税(1)：法定外税の定義、地方分権一括法での変更点、現在の傾向等</p> <p>第11回 法定外税(2)：受益・原因と負担の関係、利点と問題点等</p> <p>第12回 市町村合併：「平成の大合併」とその背景、望ましい合併とは、現在の状況等</p> <p>第13回 市民参加・参画：歴史、求められている背景、参考事例の紹介等</p> <p>第14回 住民自治：シアトル・メトロの事例(地方政府の創設)について</p> <p>第15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等</p>		
授業外学習(予習・復習)	<p>講義の前後に総務省のサイト等で関連事項について調べ、検討すること、普段から地方自治関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディア(民間企業との関係では特に興味深い記事を出すことがあります)を含む複数)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入(地域との連携は殆どの大学にとって重要な課題です)にも有意義です)。そして、講義内容に直接関係しなくても、聞きたいことが出てきたら、遠慮なく質問してください。</p>		
成績評価の方法	<p>筆記試験(80%)、小テスト(20%)を基本とし、アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。</p>		
実務経験について	なし		

授業科目	高齢者福祉	担当者	田口康明
	〔履修年次〕 1年	授業外対応	メールで連絡、随時対応
	〔学期〕 後期 〔単位〕 2	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】社会福祉の構造を明らかにし、その中での高齢者福祉の位置づけについて考える。あわせて、2000年以降変化する社会福祉について、高齢者福祉の分野に導入された「介護保険」の制度を検討し理解する。また学生諸君が親の介護に向き合うようになる前に基礎的な知識を身につけることを目的とする。</p> <p>【概要】本科目は、本科目は、専門科目として開設されている。授業では少人数が想定されるので、受講者はテキストを読み、その要約を発表しながら内容の理解を進めていく。</p> <p>【到達目標】介護保険を中核とする「高齢者福祉」の仕組みの理解につきます。将来、高齢者当事者として、また介護者当事者として向き合うことが、すべての人にとってほぼ確実であるのでその理解を進める。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 小竹雅子『総介護社会——介護保険から問い直す(岩波新書)』</p> <p>(2) 授業内で随時紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス この授業のすすめ方</p> <p>第2回 (講義) 福祉とは何か・必要という考え方・必要に基づく社会政策</p> <p>第3回 (講義) 資源とその供給・資源の再分配・官僚制と専門主義</p> <p>第4回 (発表) テキスト「序章：介護問題の社会化」</p> <p>第5回 (発表) テキスト「第1章：介護保険を利用する人たち」その1</p> <p>第6回 (発表) テキスト「第1章：介護保険を利用する人たち」その2</p> <p>第7回 (発表) テキスト「第2章：介護現場で働く人たち」その1</p> <p>第8回 (発表) テキスト「第2章：介護現場で働く人たち」その2</p> <p>第9回 (発表) テキスト「第3章 介護保険のしくみ」その1</p> <p>第10回 (発表) テキスト「第3章 介護保険のしくみ」その2</p> <p>第11回 (発表) テキスト「第4章 介護保険の使い方」</p> <p>第12回 (発表) テキスト「第5章 介護保険にかかる金」</p> <p>第13回 (発表) テキスト「第6章 なぜ、サービスは使いつらいのか」</p> <p>第14回 (発表) テキスト「第7章 介護保険を問い直すガイダンス」</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	<p>テキストの各回の箇所を十分読むこと/各回のテキストの指定部分を事前に熟読する</p>		
成績評価の方法	<p>授業中の発表 60%、授業中の発言 20% ファイナルレポート 20%</p>		

授業科目	労働法	担当者	疋田京子
	[履修年次] 1、2年 [学期] 後期 [単位] 2 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義	授業外対応	適宜対応 (メールで予約)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ディーセントワーク (人間らしい働き方) を実現するための基礎知識</p> <p>【概要】「過労死」が国際語として通用するほど有名な日本の長時間労働。また正規と非正規の格差の拡大。こうした日本の職場に根強い雇用慣行は、どのような法制度のなかで起こったのか。「働き方改革」のための法整備によって、職場はどのように変わろうとしているのだろうか。</p> <p>【到達目標】</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する</p> <p>(2) 授業中に適宜紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：労働法を知る大切さ</p> <p>第 2回 労働法の全体像：憲法—民法—労働法の関係</p> <p>第 3回 労働契約：自分の労働条件を知らないとうなる？</p> <p>第 4回 内定辞退と内定取り消し：「内定」の法的性格</p> <p>第 5回 賃金に関するルール：研修期間中は最低賃金法の適用がないってホント？</p> <p>第 6回 労働時間に関するルール (1)：所定労働時間と法定労働時間の違い</p> <p>第 7回 労働時間に関するルール (2)：時間外労働・休日労働・深夜労働とは？</p> <p>第 8回 「各種保険完備」とは？：パイトのケガは自己責任？</p> <p>第 9回 有給休暇は権利です：アルバイトにも有給給付はある</p> <p>第 10回 労働契約終了のパターン：「辞める」と「辞めさせられる」の違い</p> <p>第 11回 働くことは人権です：産前・産後休業と育児・介護休業</p> <p>第 12回 募集採用に関する法的規制：採用面接で会社は何を質問してもいいの？</p> <p>第 13回 労働時間に関する応用問題：変形労働時間制と裁量労働制</p> <p>第 14回 賃金に関する応用問題：残業代込み、出来高制、休業補償制度</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	復習をしっかりとってください。		
成績評価の方法	2回のレポート (中間レポートと最終レポート) の提出 (80%) 授業ごとのミニレポート		
実務経験について			

授業科目	地域研究特講	担当者	福田 忠弘
	[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】世界の格差の状況について認識し、貧困の問題について国際社会はどのような対応をとってきたのかを講義する。</p> <p>【概要】本講義では、さまざまな国際協力・開発援助について取り上げる。最初に開発援助についての歴史について言及した後、国際機関、国家、地方自治体、市民が主体となった国際協力について概観する。</p> <p>【到達目標】さまざまな行為体が、さまざまなレベルで、多様な援助が行われていることを理解することが到達目標である。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 使用しない。</p> <p>(2) 新潟国際ボランティアセンター編『地方発の国際NGO：グローバルな市民社会に向けて』(明石書店, 2008年)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：講義の目的と方法</p> <p>第 2回 世界の現状 1：数値からみる世界の格差</p> <p>第 3回 世界の現状 2：グローバリゼーションの進展</p> <p>第 4回 第二次世界大戦後の国際経済体制：ブレトンウッズ体制について</p> <p>第 5回 途上国の開発：輸入代替工業化戦略と輸出志向工業化戦略</p> <p>第 6回 国際機関による援助 1：さまざまな国際機関 1</p> <p>第 7回 国際機関による援助 2：さまざまな国際機関 2</p> <p>第 8回 国家を主体とする援助 1：ODA について (1)</p> <p>第 9回 国家を主体とする援助 2：ODA について (2)</p> <p>第 10回 企業による社会活動：CSR を中心に</p> <p>第 11回 市民を主体とする援助 1：NPO の活動 (1)</p> <p>第 12回 市民を主体とする援助 2：NPO の活動 (2)</p> <p>第 13回 市民を主体とする援助 3：NPO の活動 (3)</p> <p>第 14回 人間の安全保障</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	試験 (80%) 授業への参加態度 (20%) によって評価する。		

授業科目	地方自治法		担当者	山本 敬生
	[履修年次]	1,2年履修可	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】住民自治, 団体自治といった地方自治の基礎理論を理解した上で, 地方公共団体の種類及び事務, 住民の権利義務, 条例と規則, 議会, 執行機関を中心に地方自治法を体系的に学習し, 地方の時代における国と地方公共団体との新たな関係について検証することをテーマにする。</p> <p>【概要】地方自治法は, 国と地方自治公共団体の役割分担, 機関委任事務の廃止に伴う法定受託事務の創設, 普通地方公共団体に対する国または都道府県の関与, 国と普通地方公共団体との間の係争処理手続等を規定している。本講義では, 地方自治法をわかりやすく解説することで, 地方自治法が地方分権改革を推進する上でいかなる役割を果たすかを学習する。</p> <p>【到達目標】地方自治法の基本構造を正確に理解し, 国と地方公共団体のあるべき関係を法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 佐伯仁志他編, 『ポケット六法(令和5年度版)』, 有斐閣</p>			
授業スケジュール	第1回	地方自治の意義	・住民自治, 団体自治, 伝来説, 固有権説, 地方自治の本旨について	
	第2回	地方公共団体の種類	・地方公共団体の構成要素(住民, 区域, 法人格), 都道府県, 市町村について	
	第3回	地方公共団体の区域・事務	・区域, 機関委任事務, 法手受託事務について	
	第4回	住民の権利義務(1)	・住民, 条例の制定改廃の請求, 事務監査の請求について	
	第5回	住民の権利義務(2)	・議会の解散請求, 議員, 長及び特定職員の解職請求, 住民監査請求について	
	第6回	条例と規則(1)	・条例制定権の範囲と限界, 法令先占論, 条例の効力について	
	第7回	条例と規則(2)	・条例制定手続, 条例と罰則, 行政罰, 規則の制定事項について	
	第8回	議会(1)	・議会の地位, 町村総会, 議会の組織, 議会の権限, 調査権について	
	第9回	議会(2)	・定例会, 臨時会, 議会の運営, 会議公開の原則, 会期不継続の原則について	
	第10回	執行機関(1)	・長の地位, 長の権限, 長の職務の代理, 地方公共団体の事務所について	
	第11回	執行機関(2)	・行政委員会の意義, 長と行政委員会との関係, 監査委員, 教育委員会について	
	第12回	国等の地方公共団体への関与	・国の関与の原則, 法定受託事務の処理基準, 国地方係争処理委員会について	
	第13回	長と議会との関係(1)	・議会の監視, 再議制度, 一般的拒否権, 特別的拒否権について	
	第14回	長と議会との関係(2)	・専決処分, 長に対する不信任議決, 議会の解散, 再度の不信任議決について	
	第15回	予算	・予算事前議決の原則, 予算公開の原則, 会計年度独立の原則について	
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。			
成績評価の方法	筆記試験(90%) + 授業での発言内容(10%)を基準にして評価する。			
実務経験について	なし			